

方面別指針の検討（個票）【東部】

東部

時代を捉えてポテンシャルをいかし、次の世代にも選ばれる新たな魅力を創出・発信するなど、これからの京都の可能性を引き出す

将来像の検討に向けた論点

- 京都の東の玄関口で、盆地形のまとまった市街地として、どのような未来の可能性を追求できるか
- 地下鉄東西線や新十条通などのポテンシャルが存分に発揮できるためには

方面の基礎的データ

※おおむね該当する行政区（山科区、伏見区）のデータを掲載

用途地域	市街化区域面積のうち、各用途地域が占める割合（%）	住居系 89（うち、住居専用系：70）	商業系 6	工業系 5
------	---------------------------	------------------------	----------	----------

※住居系：住居専用、住居 商業系：商業、近隣商業 工業系：準工業、工業、工業専用
※全市平均の用途地域割合（各用途地域が市街化区域に占める割合）を上回るものに 89
※伏見区については、醍醐地域の範囲で算出

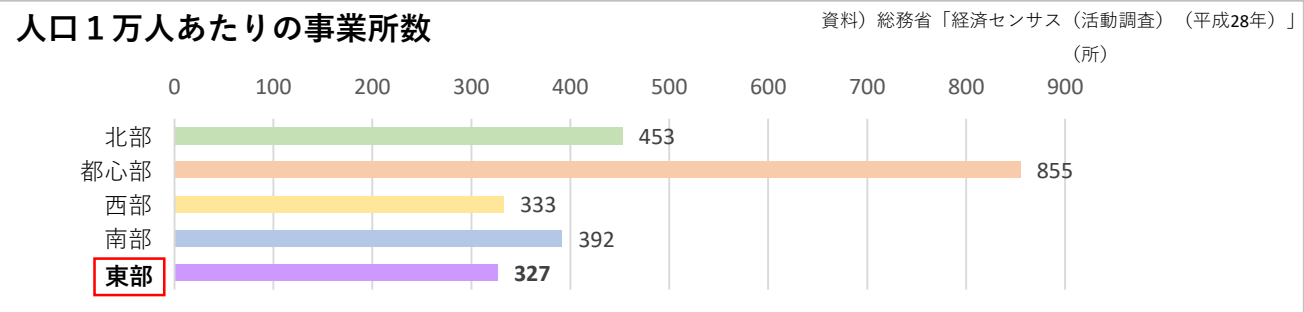
人口	山科区：130,120人 伏見区：273,008人	資料）京都市「住民基本台帳（令和3年1月1日時点）」
----	---------------------------	----------------------------

住む場所と働く場所の関係（昼夜間人口比率）	山科区： 0.79 伏見区： 0.92	資料）総務省「国勢調査（平成27年）」を基に本市作成
-----------------------	---	----------------------------

※就業者のみで算出 * 昼夜間人口比率 = 昼間人口 / 夜間人口であり、1未滿は【区外に流出超過】

拠点 ※1	類型 ※2	用途地域上の特性 ※3	交通結節性 ※4	乗降客数（千人） ※5	都心へのアクセス性（分） ※6	生活利便施設の延床面積（100㎡） ※7		社会動態（人） ※8			
						店舗	医療	若年・子育て層の転出入の状況		全年齢	
山科	交	住居系・商業系	地・京・J	43,451	14	609	155	472	▲240	232	320
柳辻	交	住居系	-	6,235	18	590	102	117	▲238	▲121	37
醍醐	交	住居系	-	4,691	23	1,137	94	▲72	▲172	▲244	155
六地蔵（市境）	交	住居系	地・京・J	8,191	27	1,225	31	15	▲88	▲70	144

分譲マンション供給の状況（発売戸数（戸））		資料）不動産経済研究所「全国マンション市場動向」				
		山科区	伏見区	南山城地域	大津市	湖南地域
H21～H25		487	773	1,331	1,913	1,873
H26～H30		293	1,332	491	1,563	978

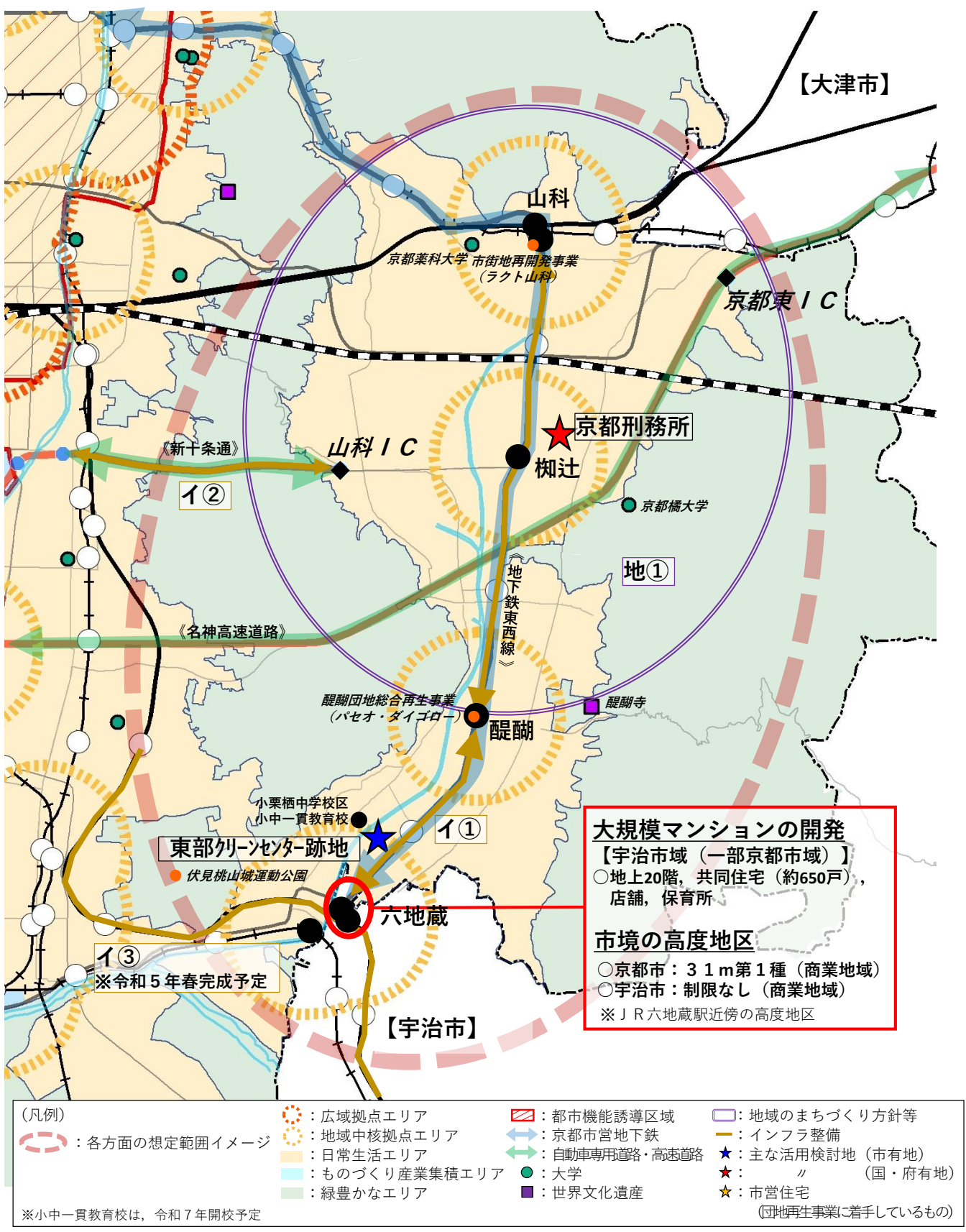


インフラ整備

- 【イ①】東西線開通（二条～山科～醍醐（平成9年））（醍醐～六地蔵（平成16年））
- 【イ②】新十条通無料化（平成31年）
- 【イ③】JR奈良線複線化（事業中）

地域のまちづくり方針等

- 【地①】京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略（平成31年）



※小中一貫教育校は、令和7年開校予定

（地域中核拠点データの注記）
 ※1 駅から半径500m圏内に含まれる複数の調査地区（*）を集計エリアとして設定 * 市中心部の元学区（明治期の通学区、面積25ha、人口約4,000人）を標準にして、京都市独自で設定
 ※2 持続可能な都市構築プランの類型（交：交通結節・賑わい型、文：文化・大学・観光型、生：生活拠点型 ※複合的な特性を持つエリアは主な類型に区分）を表記
 ※3 全市平均の用途地域割合（各用途地域が市街化区域に占める割合）を上回るものを参考に主なものを設定
 ※4 乗り入れが2路線（地：地下鉄、阪：阪急、京：京阪、観：観山、嵐：京福、近：近鉄、J：JR、B：バスターミナル）以上の場合に表記
 ※5 資料：京都市「京都市統計書（令和元年度）」
 ※6 地下鉄「四条烏丸駅」までのアクセス時間 ※乗り換え時間は含まず
 ※7 資料：京都市「土地利用現況調査（平成31年1月1日現在）」
 ※8 資料：京都市「住民基本台帳 ※前年1月から前年12月末までの暦年計を示す」を基にH26～H30の社会動態を京都市にて集計 ※外国人・市内移動を含む